

「徳島県立海部病院整備方針」中間とりまとめの概要

抜本的な津波対策として、地域医療再生臨時特例交付金を活用し安全な高台への移転改築を行う。

基 本 方 針

1 安全・安心な医療の提供

南部Ⅱ保健医療圏の急性期医療を担う「中核病院」として、地域住民がいつでも安心して受けられる医療サービスの提供。

2 高齢化による疾病構造の変化等への対応

高齢化が進み、疾病構造や家庭環境が変化する南部Ⅱ保健医療圏において必要となる回復期、亜急性期等の医療機能の充実。

3 災害時における医療体制の整備

「東海・東南海・南海」三連動地震等の大規模災害が発生した場合にも、病院機能を維持し、県南地域の災害医療の拠点となるための体制整備。

4 地域医療を担う人材の養成

総合メディカルゾーン南部センターである海部病院に、これからの地域医療を担う「人材育成の拠点（地域医療研究センター）」を整備。

担うべき主要機能

地域の社会的要請や医療・保健環境の特性に根ざした、地域密着型医療の実現に向けて、急性期における一般的かつ標準的な検査・診断・治療を行うことはもとより、次の機能について、重点的に取り組む。

- ①救急医療：二次救急医療の確保（ドクターヘリ等の活用による救命率の向上）
- ②災害医療：施設整備と機能充実（ヘリポート、トリアージスペース、ライフラインの確保等）
- ③感染症医療：第二類感染症等への対応
- ④へき地医療：へき地診療所への医師派遣機能の確保等
- ⑤周産期医療：産科の維持（産婦人科医師等の確保、分娩スペースの整備等）
- ⑥がん医療：がん医療の診療機能の向上（化学療法、緩和ケアの充実等）
- ⑦回復期、亜急性期等の医療：回復期や亜急性期の医療、訪問看護等の在宅医療の充実
- ⑧地域医療研修機能：研修医や医学生の研究、研修、実習や宿泊の機能の拡充

診療科目・病床数・病床種別

①診療科目

内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、放射線科、泌尿器科、皮膚科、（総合診療科）

②病床数

医療圏内の医療ニーズや医療機関の状況などを踏まえ、現病院の110床を基本とする。

③病床種別

現病院の病床種別（一般病床102床、結核病床4床、感染症病床4床）を基本とする。

施設整備の方針

- ①発災時に多くの被災患者を受け入れ、手当て等ができるスペースの確保に努めるとともに、高齢化が進む地域性などに配慮するなど、「災害に強い、安全で安心な施設」
- ②十分な病床1床当たりの面積を確保するなど、患者さんにとって「快適な療養環境の施設」
- ③地域住民と医療スタッフなどが講演会、コンサート等で交流を行う「地域に開かれた施設」
- ④自然環境や省エネルギーに配慮した「環境にやさしい施設」
- ⑤医療スタッフの機能的な動線等にも配慮した「医療スタッフが働きやすく魅力ある施設」